

環境セミナー(8)JCI残コ・戻りコン報告会 名古屋・大阪

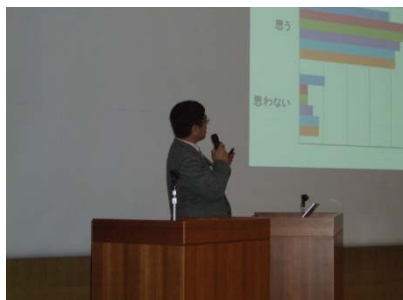
コンクリート工学会の「残コン・戻りコン」の報告会が2月23日、24日にそれぞれ名古屋・大阪で開催された。募集定員170名のところ100名程度の参加者であった。特に大阪の講師は最強の人材で臨んだが、参加者も少なく定員の半分という状況であった。「残コン・戻りコン」は、コンクリート工事があれば必ず発生する。これを適正処理することはゼネコンの施工計画に依存する。しかし、ゼネコンの参加者が極めて少ないことに憤りを感じる。確かに「残コン・戻りコン」はメジャーじゃないけれど、これは、建設残土の処理方法が決まらなると工事が開始できないことと同等の問題である。中央の規制がここでも阻害要因となっていることが指摘された。建設業において、コンクリート工事が分業化された状況において、半製品である生コンが、通常消費材と同じように取り扱われていることにも問題がある。



名古屋会場 (名古屋大学)



三重大学畑中教授の基調講演



金沢工業大学宮里教授



三井住友建設谷口主任研究員



今世紀最後の講演



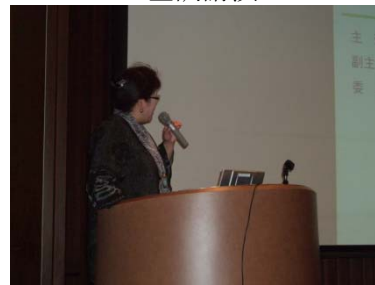
委員長・広島工業大学
十河教授



立命館大学岡本教授
の基調講演



日本大学中田教授



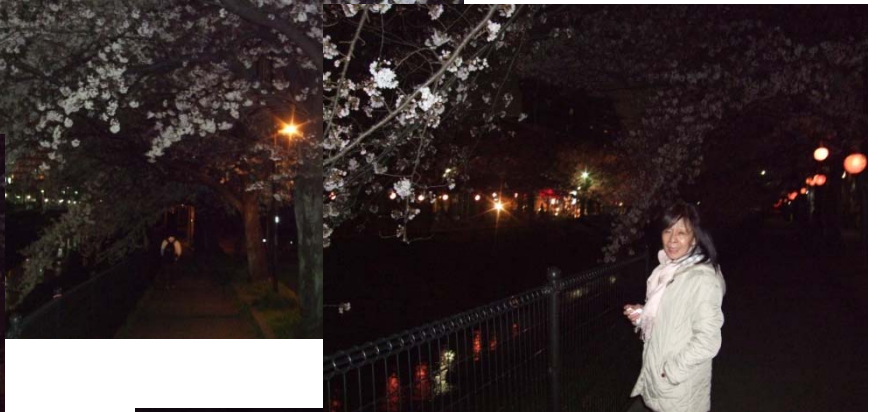
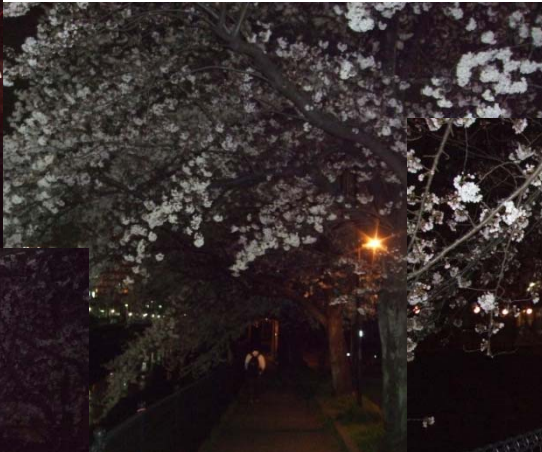
建材試験センター鈴木課長



大阪会場

環境セミナー(9)多摩桜2012

自宅の前の乞田川沿いの桜が今年も咲いた。ここは、京王永山駅から京王多摩センターまで約3kmの多摩市の桜の名所である。今日はその夜桜を探索したが、例年より5日程度遅く、まだ5分咲きで人出も少ない。東京都心の桜は今日が満開ということであるが、この桜はまだ5分咲きである。多摩市の気温は都心に比べて3℃ほど低いので、満開は2、3日後であろう。桜の開花は潜伏期の気温、それ以後の気温と日数の積算温度で推定できることを昨年ここで説明した。コンクリートの強度発現の推定方法と何ら変わることがない。都心の花見では酒も飲めず宴会も禁止らしいが、ここでは、人工の河原がありそこで自由に飲食ができるのが嬉しい。そして、川沿いに2、3件しかないおしゃれなパブレストランで一杯やるのもいい。



環境セミナー(10) 富良野

北海道の富良野へ行って来た。ラベンダーの季節も過ぎ、サルビア、マリーゴールド、クレオメなど秋草花で覆われており、油絵を見るようである。北海道は四季がはっきりしているから、草花の色彩にもメリハリがある。

「四季彩の丘」では、トラクタ牽引車の「のろっこ号」で案内してくれる。トラクタ運転手兼ガイドの北海道弁も懐かしい。ときどきガイドのおやじギャグにも違和感もなく納得させられる。「ファーム富田」では、草花の手入れ風景を見ることができた。その光景も美しく見えるから不思議である。

北海道の樹木は晩夏をむかえ成長が停止状態に入った。樹木の1年間の生長輪を早材（春材）と晩材（秋材）に区別する。しかし、英語では秋材のことを何故かサマーウッドという。これは、夏と秋の境界があいまいな亜熱帯地方に首都圏が存在する日本独特の地理的条件の影響かもしれない。

富良野の冬はカラスが住めないほど寒い。しかし、植物には潜伏期間も重要らしい。そして、この極寒を乗り越えて、春には相変わらず美しい花を咲かせてくれる。



四季彩の丘



ファーム富田

環境セミナー(11) 会所無農薬実践農場

建設会社を定年退職してから、夫婦で専業農家になった人がいる。千葉県房総半島の山間部で米と野菜を作っている。稲作は農場主が担当で、野菜は奥様の担当である。実りの秋を迎えて、稲刈りの準備に入っている。

農場主とは30年ほど前から仕事上の付き合いで、建築プロジェクトの改革に取り組んできた。そのころはまだパソコンもなく、情報の伝達手段はもっぱらワープロ通信であった。それは彼が開発したもので、「スマート通信」と名付けて、全国ネットワークを構築した。今回久しぶりに会って、その変身ぶりに驚かされた。

日本の農業従事者の高齢化を危惧する報道が多いが、農業には定年がないから当たり前のことである。それよりも、欧米指向の少品種・大量生産を当たり前のように言い、経済アニマルが経営に参画するようになったのが問題である。外食産業によって農業の多様性を排除し、日本の食の文化をも崩壊させている。効率化のみで世界中から食料をあさっている反動も怖い。

農業は社会資本として極めて重要である。国土の保全、環境保全そして水質安全のためにも継続した対応が必要である。歴史的に若者を農業から排除する政策がとられてきた。高齢者の農業回帰にも種々の制約がある。高齢者を邪魔ものにする風潮があるけれど、10石や20石程度の米を作れる元気な高齢者も多くいる。その人間力を農業に利用しない手はない。



PM&SEから転職した農場主（左）



60年経過した母屋



イノシシも出没する田んぼ



イノシシ避け



試し刈り



これがあれば高齢者もOK